

1 日 時 令和6年6月5日(水) 5校時(13:50~14:35)

2 場 所 運動場(雨天時は体育館)

3 単元名 陸上運動「目指せ日本代表! 6年アンダーハンドパスリレー!」

4 単元の目標

- (1) リレーの行い方を理解するとともに、チームの記録の伸びや目標とする記録の達成を目指すために、滑らかなバトンの受渡しをすることができる。 **【知識及び技能】**
- (2) 自己やチームの能力に適した課題解決の仕方、競走や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝え合うことができる。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- (3) 運動に積極的に取り組み、仲間の考えや取組を認めたり、用具の準備や片付け、計測、記録など分担された役割を果たしたりすることができる。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

5 身に付けさせたい力の系統表

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
第一学年及び第二学年 (走の運動遊び)	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな形状の線上等を真っ直ぐに走ったり、蛇行して走ったりすることができる。 ○ 相手の手の平にタッチをしたり、バトンの受渡しをしたりして走ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 直線や曲線、ジグザグなどいろいろな運動遊びの場の中から、自己に適した運動遊びの場を選ぶことができる。 ○ 活動後に、感想や動きのポイント、友達の良い動きを書いたり、発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動遊びに進んで取り組むことができる。 ○ 順番やきまりを守り、誰とも仲良くすることができる。 ○ 勝敗を受け入れることができる。 ○ 使用する用具の準備や片付けを、友達と一緒にすることができる。 ○ 場の安全に気を付けることができる。
第三学年及び第四学年 (走の運動)	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな走り出しの姿勢から、素早く走り始めることができる。 ○ 真っ直ぐ前を見て、腕を前後に大きく振って走ることができる。 ○ 走りながら、タイミングよくバトンの受渡しをすることができる。 ○ コーナーの内側に体を軽く傾けて走ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の運動の様子をタブレットなどのICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付けることができる。 ○ 動きのポイントについて見合ったり教え合ったりしやすくなるような練習の場を選ぶことができる。 ○ 活動後に、運動のポイントや友達の動きの良さなどを学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したり、感想文を書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動に進んで取り組むことができる。 ○ きまりを守り、誰とも仲良く励まし合うことができる。 ○ 用具の準備や片付けを友達と一緒にすることができる。 ○ 勝敗を受け入れることができる。 ○ 友達の考えを認めることができる。 ○ 場や用具の安全に気を付けることができる。
第五学年及び第六学年 (陸上運動)	<ul style="list-style-type: none"> ○ スタンディングスタートから、素早く走り始めることができる。 ○ 体を軽く前傾させて全力で走ることができる。 ○ テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンの受渡しをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己や仲間の走りの様子をタブレットなどのICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己やグループの課題を見付け、自己に適した練習方法を選ぶことができる。 ○ 自己やグループの能力に適した練習の場を選ぶことができる。 ○ 活動後に、運動のポイント、学習の記録、仲間の動きの良さなどを学習カードに書いたり、感想文を書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動に積極的に取り組むことができる。 ○ 約束を守り、仲間と助け合うことができる。 ○ 用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たすことができる。 ○ 勝敗を受け入れることができる。 ○ 仲間の考えや取組を認めることができる。 ○ 場や用具の安全に気を配ることができる。

6 単元の評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ○ リレーの行い方を理解する。 ○ スタンディングスタートから、素早く走り始めることができる。 ○ 体を軽く前傾させて全力で走ることができる。 ○ テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンの受渡しをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己やグループの課題解決の仕方や、記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ○ 活動後に、運動のポイント、学習の記録、仲間の動きの良さなどを学習カードに書いたり、感想文を書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動に積極的に取り組むことができる。 ○ 用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たすことができる。 ○ 仲間の考えや取組を認めることができる。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ○ サークルリレーの行い方を理解する。 ○ 友達の掛け声や自分のマーカーの位置からタイミングを計り、素早くスタートを切ることができる。 ○ 真っ直ぐ前を見て、腕を前後に大きく振って走ることができる。 ○ タイミングを合わせ、なるべく減速の少ないバトンの受渡しをテークオーバーゾーン内で行うことができる。 ○ コーナーの内側に体を軽く傾けて走ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己や仲間の走りの様子をタブレットなどのICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己やチームの課題を見付け、適した練習方法を選ぶことができる。 ○ 活動後に、運動のポイントや学習の記録、仲間の動きの良さなどを学習カードに書いたり、感想文を書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなが楽しく運動できるように周りの様子に気を配りながら、進んで運動できる。 ○ 毎時間の練習、記録測定等で用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たすことができる。 ○ ミーティングや振り返りを通して、仲間の考えや取組を認めることができる。

7 本単元の指導観

(1) 児童について

本学級の児童（男子 17 名、女子 11 名）は、素直で活発に活動している児童が多い。休み時間には、多くの児童が運動場でサッカーやバスケットボール、ドッジボールなどをして元気に運動している。また、授業においては、積極的に挙手をして自分の考えを発表したり、ペアやグループで話し合い活動を行ったりすることができる児童が多い。一方で、一部の児童は室内で運動以外の活動をして過ごすことが多く、自分の考えや思いを書き表したり、表現したりすることを苦手としている。

体育科の授業では、体ほぐし運動の単元において、チームで協力してオリジナルの西条パッケージを作成し、友達と共に体を動かしたり、協力し合って活動を作り上げたりすることの楽しさを実感していた。活動中には自然にハイタッチを行うなど、笑顔で運動に取り組む雰囲気ができている。また、より良い活動になるようにチームで話し合ったり、改善点を提案したりするなど、積極的に友達と関わろうとする姿も見られる。しかし、自分の技能に自信がなく、チームの活動に積極的に参加できないため、運動の楽しさを感じられない児童もいる。

また、本学級の児童へ事前にアンケートを取ったところ、79%の児童が走ることやリレーが「好き」「どちらかというと好き」と答えている。一方で、17%の児童はリレーをすることが「嫌い」と答えている。理由は、「走ることが苦手だから」「みんなに迷惑を掛けるから」「追い抜かれるのが嫌だから」と答えていた。この結果から、走ることやリレーに対して関心の高い児童が多い一方で、走ることやリレーが嫌いである児童も一定数いることが分かった。

本学級の児童は4年生以降、体育科の授業でのリレー経験がほとんどなく、課外活動の陸上練習や運動会の紅白リレーにおいて、数名の児童がリレーの経験をしている程度である。このことから、単元の導入では容易な内容を増やし、少しずつリレーの形に近付けていくことで、リレー教材の持つ本質的な面白さを味わえるようにしていきたい。

(2) 教材について

本単元は、陸上運動の「短距離走・リレー」を取り上げる。リレーは、苦手意識のある児童でもバトンパスの仕方を知ったり、練習方法を工夫したりすることで、短期間でも技能の向上を実感することができる教材である。また、チームの記録や伸びをタイムで実感することができ、児童の運動に対する関心や意欲を高めることができる教材であると考え。このように技能差や経験差に関わらず、全員が楽しむリレー教材にするために、苦手な児童にも取り組みやすいような容易な練習内容や場の設定、扱いやすい用具の工夫などが必要であると考えた。

本単元は、運動に苦手な意識を持つ児童も活動に参加しやすくするため、他チームと競走するのではなく、チームの記録の伸びを追求させることを重視する。そうすることで、全員が教材の持つ本質的な面白さを味わうことができるようになることを考える。

本単元では、アンダーハンドパスを取り入れる。アンダーハンドパスを取り入れる理由は二つある。一つ目は、バトンを受け取る際の姿勢が、オーバーハンドパスよりも普段の走る姿勢に近いからである。オーバーハンドパスの際には、バトンを受け取る際に、受け取る手を肩の高さまで上げなければならない。しかし、アンダーハンドパスでは、バトンを受け取る際に、受け取る手を高く上げる必要がなく、普段の走る姿勢に近くなるため、リレーの経験がない苦手な児童も取り組みやすいと考える。二つ目はバトンを受け取った後にバトンを持ち替えるため、アンダーハンドパスの難易度を下げることができるからである。今回行うリレーではサークルリレーの形式で行うため、バトンを右手で受け取った後、左手に持ち替える。そのため、受け手のバトンを掴む位置の重要性が下がり、渡し手はバトンの渡す位置を気にする必要がなくなり、次走者にしっかりとバトンを渡すことだけに集中できる。

また、本単元をステージ1、ステージ2、ステージ3の3段階に分けて授業を展開していく。ステージ1ではバトンパスの技能の向上をねらいとし、ステージ2ではチームや学級全員のリレーを行い、タイムを縮めていくことをねらいとする。ステージ3では、単元の締めくくりとして、児童の思いや考えを生かした活動を行う。

まず単元の導入では、リレーの行い方を確認して、実際に全員でリレーを行う。その際、バトンパスの方法については詳しく伝えず、これまでの経験に基づいてつないでいく。その後、日本代表のリレー動画を視聴し、バトンパスの仕方に注目させる。日本代表はアンダーハンドパスを取り入れているため、これまで自分たちが経験してきたバトンパスとの違いに気付かせ、興味関心を高めたり、「やってみたい」という気持ちを引き出したりする。ステージ1では、直線のレーンを使用して練習することを基本とし、段階的に技能を高めていくようにする。ここでは、手つなぎリレー、ボールパスリレー、バトンパスリレーと段階的に練習の難易度を上げていくことで、苦手意識を持つ児童も取り組みやすいようにしたい。さらに、練習の様子をタブレット端末で撮影し、個人やチームのバトンパス技能の向上を可視化できるようにする。このように、ステージ1では能力に応じた練習を通して技能を高めていき、次のステージ2につなげていく。

次にステージ2では、向上したバトンパスの技能を生かして、チームリレーを行い、チームの課題に気付かせる。課題に合った練習メニューを選び、課題解決をしていく。また、学級全員でのチームリレーバトンも行う。これらのリレーで、自分たちの課題を解決してタイムを縮めていく楽し

さや達成感を味わわせたい。さらに、「えひめ子どもスポーツ I T スタジアム」を活用し、他校のタイムと比較できる機会を設けることで、モチベーションの向上につなげていきたい。

ステージ3では、「周布小リレー教室」を位置付ける。本単元で身に付けたバトンパスの技能を他学年と共有し、リレーの面白さやよさを味わってもらいたい。内容については、児童と共に話し合いながら活動を進めていく。「周布小リレー教室」を学級全員で作りに上げていくことで、児童が本単元で身に付けた技能の高まりを実感するとともに、今後も運動に親しんでいこうとする意欲を高めたい。

評価は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の観点に則った「ルーブリック」を活用し、教師がその指標を基に評価したり、児童が自己評価を行ったりできるようにする。本単元では、教師があらかじめ決めた評価指標を用いて、児童が目標を持って意欲的に運動に取り組めるようにする。

(3) 指導について

毎時間の導入では、楽しさを味わい、前向きな気持ちで授業に参加できるようにするために西条パッケージ（音楽に合わせた運動）を取り入れる。西条パッケージの前半は、ストレッチやペア活動を行い、心と体をほぐすねらいがある。また、後半では、リレーの動きにつながる下位運動を取り入れ、技能の定着とともに、どの児童も抵抗なく主運動に取り組むことへつなげていきたい。

そこで本時は、友達と積極的に関わり合いながら、チームの課題を解決するための練習に取り組み、子どもたち自身が目標とするバトンパスができるようになることをねらいとする。西条パッケージを行った後、チームごとに前回の取組の振り返りを行い、課題を明確にした上でチーム別課題練習に取り組むことができるようにする。また、その際、いくつかのバトンパスの練習モデルを用意し、チームの課題に応じて主体的に活動できるようにする。

振り返りの場面では、友達と声を掛け合ったり、課題解決のための練習に進んで取り組んだりできたかを振り返る。その際、ミーティングボードに各チームの振り返りを記入させ、全体で共有する。そして、次時の「周布小リレー教室」では、今までの練習で高めた技能を生かし、自分たちの目標とするバトンパスを他学年に見せることで、学級の雰囲気高めたり、学校全体でリレーのよさを味わったりすることができる。

8 本時の指導 (7/8)

(1) ねらい

- チームの目標タイムの達成を目指しながら、タイミングを合わせ、なるべく減速の少ないバトンの受渡しをすることができる。 【知識及び技能】
- 個人やチームの課題解決のために考えたことを伝え合ったり、練習メニューを選んだりすることができる。 【思考力・判断力・表現力等】

(2) 準備物

ホワイトボード、学習カード、タブレット端末、カラーコーン、バトン、マーカー、ビブス

(3) 展開

学習活動	主な発問(○)と予想される児童生徒の反応(・)	○指導上の留意点 ◎評価
<p>1 西条パッケージ</p> <p>2 上手なバトンパスに必要なことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽に合わせて体を動かすと、楽しいな。 ○ 上手なバトンパスをするためには何が大切かな？ ・ タイミングよく前の人が走り出すこと。 ・ バトンを渡すタイミングを二人で合わせること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 準備運動や主運動につながる動きを取り入れる。 ○ 上手なバトンパスに必要な要素を確認することで、ミーティングにつなげられるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">どの課題を解決すれば、もっと上手なバトンパスになるだろうか。</div>		
<p>3 ミーティングをする。</p> <p>4 グループ別課題練習をする。</p> <p>5 グループ別記録測定をする。</p> <p>6 全員リレー記録会をする。</p> <p>7 学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前はここがうまくできていなかったな。 ・ 今日はこのポイントに気を付けよう。 ・ 動画を見ながらバトンパスを確認し合おう。 ・ タイミングを合わせる練習をしよう。 ・ 素早くスタートを切る練習をしよう。 ・ バトンを受け取るまでは前傾姿勢にしよう。 ・ 手のひらを下に向けるようにして、バトンを受け取ろう。 ・ みんなで練習の成果を出して、ベストタイムを目指そう。 ・ チームワークを大切にしよう。 ・ 自分が走っていない時も、応援を頑張ろう。 ○ 今日の練習や記録測定で、上手くいったことや改善すべきことはありましたか？ ・ タイミングを合わせてバトンパスができた。 ・ 焦らずにタイミングよくスタートできた。 ・ 手のひらを動かさないようにバトンをもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 課題解決のために考えたことを伝え合ったり、練習の場を選んだりすることができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ◎ 走りながら減速の少ないバトンの受渡しをすることができる。 【知識及び技能】 (観察・タブレット端末) ○ 友達と肯定的な関わりをしている児童を称揚する。 ○ 記録測定中に音楽を掛けることで、気持ちを高める。 ○ ホワイトボードを効果的に活用することで、活動の振り返りをしやすくする。 ○ 学習カードに本時の振り返りを書くことで、自らの成長を実感できるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">上手なバトンパスをするために、友達と話し合っ て課題を設定したり、チームに合った練習をし たりすることができた。</div>		

9 授業観察の視点

- 学習活動や教材、教具は、どの児童も「やってみたい」「できそうだ」と前向きに運動しようとすることに有効であったか。
- 児童がリレーの本質的な面白さを味わうために、学びの場や教師の関わりを工夫することができていたか。